

櫻だより



氷見市立北部中学校
校長室から
令和7年2月21日

三智

今年の2月18日は、二十四節季の「雨水」。
降る雪が雨へと変わり、雪解けが始まる頃のこと。
厳しい寒さも和らいで、ようやく春の足音が聞こえ始める頃のこと。
なのに、今日のこの雪はなんだ？
今年は、大寒の頃が暖かくて、立春過ぎて休校になる寒波が来て、さらに雨水の寒波。
きっと来週は、春がやってくる。そう信じて、体調を崩さないように注意しましょう。

さて、昨日1・2年生合同の総合的な学習の時間発表会が行われた。
1年生のテーマは「地域社会から学ぶ」～防災の視点から氷見を見る～
地震が起こったときの備え、ハザードマップの秘密、災害時の判断、氷見市の復旧状況等、
発表者が課題とした視点が素晴らしいと感じた。
2年生の感想には、1年生の発表から多くのことを学んだと書かれてあった。
天災は忘れた頃にやってくるというが、常日頃から災害時の備え等を心がけていきたい。

2年生のテーマは「共に生きる」～社会の一員としての「わたし」～
14歳の挑戦の体験を通しての発表だった。
単なる、14歳の挑戦の体験発表ではなく、発表の中に各自の課題がしっかりと位置付いて、
また、聴衆への提言もあり、聞き応えのある発表だった。
14歳の挑戦を来年度行う1年生にとっても学びの多い発表だったと思う。

3年生は既に終了したが、課題設定時に多くの講師の方から話を聞く機会があり、例年より
追究している課題が深いと感じた。
3年生の発表もとてもよかったので、後輩に聞かせられなかったのが残念…。
全学年共通であるが、「なぜ～だろう」という課題ではなく「どのようにすれば？」という
課題が多かった。
そして、書籍やネット検索で終わるのではなく、インタビュー活動や体験を通して課題解明
に取り組んでいるのがよかった。

島崎藤村はこんな言葉を残している。

人の世に三智がある。

学んで得る智、人と交わって得る智、自らの体験によって得る智がそれである。

昨日の講師の方は、「インタビュー活動を通して得た、生きた学びがあった」と表現された。
インタビューや体験によって得られた智、これは座学だけでは身に付かない。
また、もう一人の講師の方が、「大変を繰り返すことで成長できる」と言われた。
総合的な学習の時間は大変であるが、今後も生きた学び、成長できる学びとなるよう工夫して
いきたいものである。

そんなことを感じた発表会でした。ありがとうございました。